7.

縄文のビーナス誕生を思わせる日本最古級の美しい土偶が出土

伊勢と近江を結ぶ太古からの道「八風街道」沿いの東近江 永源寺相谷熊原遺跡

東近江　永源寺相谷熊原遺跡　現地説明会に参加　　2010. 6. 5.

縄文草創期の土偶が出土した永源寺相谷熊原遺跡全景と直ぐ横を流れる愛知川　2010. 6. 5.

5 月 30 日の朝刊各紙に「13000 年前縄文時代草創期の日本最古級の「土偶」が鈴鹿越の麓の東近江永源寺　愛知川 河岸段丘から出土した」と写真入で報じられた。

これは　まさに「縄文のビーナス」

それも　出土したのは縄文の草創期だという。

本当にびっくり。

また、出土した地点は琵琶湖東岸東近江から鈴鹿越で伊勢にいたる太古の道「八風街道」が山越にかかる永源寺であることにもびっくり。

関西にはあまり有名な縄文遺跡はなく、よもや　縄文のビーナス誕生を思わせる土偶が出土するとは・・・・。

場所は先月出掛けた東近江綿向山の直ぐ東側　愛知川を挟んで　湖東の名刹永源寺の対岸。この愛知川を遡って鈴鹿の山並みを越えた伊勢側には縄文草創期の土偶が出土した「粥見井尻遺跡」があり、鈴鹿を挟んで伊勢と東近江で最も古い縄文の土偶が出土したことになる。

（縄文の土偶が最も盛んになるのは縄文中期以降。　縄文のビーナスと呼ばれる国宝茅野市棚畑遺跡の土偶もこの頃で、草創期の土偶が出土したのは今回の永源寺相谷熊原遺跡と三重県松坂の粥見井尻遺跡の二つのみである。）。

また、この琵琶湖へ注ぐ愛知川沿いを下ってゆくと　ウッドサークルの中で　仮面をかぶって縄文の祭が行われていたと言われる縄文後期の東近江市能登川正楽寺集落遺跡が河岸段丘の上にある。

この愛知川沿いの道は「八風街道」と呼ばれる古道。

この地は関西縄文人たちの故地ではないのか・・・

また素晴らしい土偶　縄文のビーナス・仮面の女神・亀ヶ岡遮光器土偶や風張合掌土偶など数々の名品もそのルーツはこの鈴鹿山麓ではないのか・・・

さらにイメージを膨らませると日本の生地師の郷「君畑」もこの北の山中である。

「関西の縄文」に突然のビッグニュース　　相谷熊原遺跡とは　どんなところなのだろうか・・・関西の縄文ビーナスを是非　眺めたい。永源寺には何度か出かけたことがありますが、お寺以外にほとんどイメージ無し。　また　鈴鹿を越えてゆく八風街道もどんな風なんだろうか・・・・。6 月 5 日現地説明会あると報じられているのを見て　照会すると発掘現場は　現説が済むと直ぐに埋め戻すと・・・・。本当にどんなところなのか　是非見たくて　6 月 5 日朝早く起きて永源寺に出かけました。

粥見井尻土偶
高さ　6.8cm

永源寺相谷土偶
高さ　3.1cm

縄文草創期　日本最古級の土偶
〔13000年前〕

国宝　縄文のビーナス
高さ　45cm
縄文中期　茅野市棚畑遺跡
〔4500年前〕

永源寺相谷熊原遺跡の位置

縄文時代後期前葉(約 4000 年前)の集落跡　正楽寺縄文遺跡　滋賀県東近江市能登川

縄文のウッドサークルと仮面が出土

正楽寺遺跡は、神崎郡能登川町大字種(たね)地先の田園地帯、愛知川左岸の標高 96m 地帯に立地する縄文時代後期前葉(約 4000 年前)の集落跡で、西日本最大級の縄文遺跡として注目を集めた。主な遺構建物 5 棟、掘立柱建物跡 14 棟、ドングリ貯蔵穴 130 基以上、サヌカイトを用いた石器製作場、環状木柱列など。また、集落側の岸辺に多量の土器や動物遺体などが堆積した土器塚が、130m 以上にわたって確認され、様々な遺物が出土。さらに環状木柱列に近い土器塚最下層から、このムラのリーダーだったと思われる丁寧に埋葬された屈葬人骨が 1 体見つかっている。

【参考】　1.　5 月 29 日・30 日　日本最古級の土偶出土を伝える新聞各紙の記事（インターネットより再整理）

http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1007aidaninews.pdf

2.　【風来坊】東近江　陽だまり walk　2009. 3. 15.　1. 縄文のウッドサークルがあった能登川　正楽寺縄文遺跡

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/9walk03.pdf

1.　東近江　永源寺相谷熊原遺跡　現説参加　　2010. 6. 5.

近江鉄道八日市から八風街道を永源寺へ

新聞の報道で知った素晴らしい土偶と縄文草創期とは思えぬ竪穴住居群の村の出現。
トピックスになるような縄文遺跡の少ない関西にとってビッグニュースである。施肥とも埋め戻される前に現地に建ちたいと 6 月 5 日早朝に神戸を発って永源寺に出かけました。
10 時の現地説明会に間に合うように出かけるには　車だと名神を走って　八日市 IC を出て永源寺に向かえばなんと言うことはないのですが、電車とバスを乗り継いでゆくとなると中々厳しい。近江八幡まで電車で行って　それから近江鉄道で八日市そしてバスで永源寺へ。インターネットの時刻表を調べると朝 6 時過ぎに電車に乗れば何とか 10 時に永源寺に入れる。
（　ついでながら　神戸から近江八幡までがほぼ
100km で往復割引・ジパングの割引が使える
範囲に入り、格安。ジパング゛に入会して早く
使ってみたかった今回の永源寺行でした。）
まだ　新快速は走っていないが、6 時 25 分三宮発の米原行に乗って　近江八幡へ。乗継連絡のある近江鉄道で八日市駅に 8 時 47 分。9 時発の永源寺車庫行のバスに飛び乗って 9 時 34 分に永源寺車庫着。何とか 10 時の現地説類会に間に合う。　いつもは行き当たりばったりの風来坊であるが、今回はとにかくスケジュールどおり行かないと間に合わず。

東近江・永源寺周辺　行動地図

近江八幡 8 時 14 分着。一旦改札を出て直ぐ隣の近江鉄道の改札へ。
永源寺行のバスとセットになった一日乗車券を買って出発。
ついこの間日野／鎌掛谷の石楠花を見に行ったのでなれたもの。でも　この近江八幡から八日市を経て米原へ行く路線に乗るのは初めて。近江平野の真っ只中を安土城跡の山を左手に東の鈴鹿の山並みへ向かって走ってゆく。
奇岩のそそり立つ太郎坊宮の横をすり抜けて３０分ほどで近江鉄道八日市駅である。

近江鉄道

左手に安土城跡の山を眺めながら

はるか遠く鈴鹿の山を前方に近江平野を東へ

近江八幡から八日市へ　麦秋と田植えの近江平野の真っ只中を走る近江鉄道の沿線で　　2010.　6. 5.

八日市駅に降り立つと相谷熊原遺跡現地説明会行の直行臨時バスが接続されていて、最寄バス停である永源寺車庫まで行ってくれる。
現説の時間に間に合うかと心配でしたが、これで安心。
日曜日の早朝　八日市駅で降り立った人は　ほとんどが永源寺相谷熊原遺跡の現地説明会に出かける人達でバスもほぼ満員で永源寺へ向かって走り出す。
八日市の市街地を通り抜けるのは初めてであるが、近江八幡と共に東近江の中心地で　街路樹が並ぶ広い道の両側に東近江地域の官庁街が続く。
さすが　近江商人の町である。また、大凧の町としても有名である。

近江鉄道　八日市駅から臨時バスで永源寺へ　　2010.6.5.

国道３２１号線　古道「八風街道」は八日市駅前から東に伸びる大通りの一本南側を東西に近江八幡から八日市の街を通り抜けて近江平野のど真ん中をまっすぐ東へ突ききり、永源寺から鈴鹿の山並みを越えて四日市・伊勢に結ぶ道。
古くは伊勢風土記に登場し、古代から伊勢・尾張と近江・京都を結ぶ最短コースとして大いに繁栄。近江商人がこの道を通って物資・特産を運び大きな財を成したといわれる。
　現在の国道２１号線の鈴鹿越は悪路で有名で山越の交通路は北の鞍掛峠越や南の武平峠越・鈴鹿峠越にゆずっているが、石榑峠をトンネルで抜ける工事が進んでおり、また、往時の賑わいを取り戻すかもしれない。

八日市から東へ　近江平野の中央を八風街道がまっすぐ突ききる

バスは八日市の市街地を八風街道に出て東へ鈴鹿の山並みに向かって突き進む。
村田製作所の工場の横を通り、名神八日市 IC を潜り抜けると田園地帯が広がり、前方に鈴鹿山脈の山並みが見えてくる。街道はその山並みへまっすぐ続く一本道。
田園地帯からこの山並みの中に分け入る入り口が永源寺で、鈴鹿の山並みの右手端に先月歩いた綿向山・日野周辺がぼんやりかすんでいる。東の鈴鹿の山並みへまっすぐ伸びる国道 321 号線「八風街道」

右手端の山並みが日野・綿向山周辺　　2010.6.5.

この道の左手北側を平行して鈴鹿の山並みから愛知川が流れ下って来るのですが、バスからは見えない。

和南川を渡ると左手に愛知川　　2010.6.5.

八日市から30分弱。　山裾に近づいて、山上集落に入り右手から愛知川に流れ込む和南川の合流点を渡ると視界が開け、左手に愛知川が見えてくる。
集落を抜けて急な坂を登って山上小学校前に出ると、街道は愛知川が見え隠れする南岸の河岸段丘の上。大きな送電鉄塔と送電線が奥の愛知川ダムにある発電所から山を渡ってゆく。
まもなく永源寺である。
相谷熊原遺跡現地説明会の案内ボードを持った人が眼に飛び込んでくる。 バスはダイレクトに遺跡の最寄り駅である終点の永源寺車庫バス停へ行く臨時便なので、対岸にある古刹「永源寺」への橋紅葉橋を渡らずそのまま永源寺車庫バス停へ。

鈴鹿から西へ　山上・永源寺を流れ下る愛知川　奥の永源寺ダムの送電線が川を渡ってゆく　2010.6.5.

永源寺車庫のバス停は愛知川の南岸前方に広がる永源寺相谷集落の入り口の川のそばにあり、ここから先　八風街道は鈴鹿の山越にかかる入口である。左手下を愛知川が流れ　前方には永源寺相谷の集落　右手には山裾に沿って広い河岸段丘の上に田園が広がっている。岸の樹木に阻まれて　流れ下る愛知川の水面やちょうど対岸正面にある永源寺の本堂はよく見えない。
国道正面には鈴鹿の山並みが連なり　鈴鹿越の案内道路標識あり、道はここから右手にカーブしながら鈴鹿の山並みの中へ登ってゆく。道路案内板には「石榑峠　崖崩れで通行止め」と書かれていて　鈴鹿越が今も難所であることを示している。
相谷熊原遺跡現地説明会の案内ボードを持った人たちが待ち受けてくれる。　バス停のすぐ横に駐車場があり、もう多数の車でいっぱいである。遺跡へは今バスで愛知川沿いを登ってきた道の右手の河岸段丘の上を西へ約500mほど戻ったところ。
バスを降りた人たちの行列が田園地帯の中を遺跡へ向かう。
ところどころに案内標識と案内の文化財保護協会の人たちが立っていてくれる。

永源寺車庫より東の鈴鹿方面　　2010.6.5.

永源寺愛知川の南側の河岸段丘の上　永源寺車庫　写真奥が相谷熊原遺跡　2010.6.5.

バスから降りて　案内板にしたがって　田園の中を　現地説明会へ向かう　2010.6.5.

東側　鈴鹿の山々

熊原集落の中に遺跡への案内板

熊原集落を抜けると　圃場整備が進む広大な田園が広課程増した　この一帯が相谷熊原遺跡

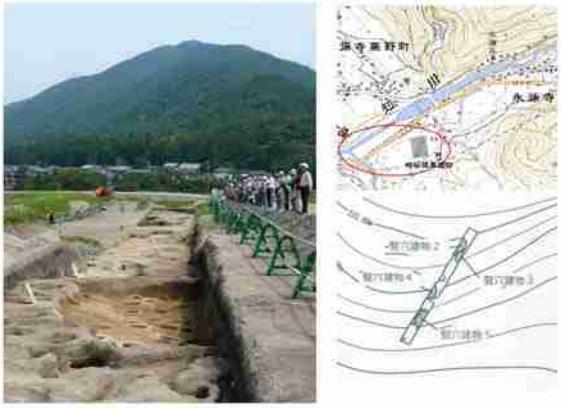
相谷熊原の集落をぬけると前方にパッと圃場整備が進む田園地帯が広がり、来る道々　歩きながら文化財保護協会の人が、「こんなすばらしいロケーションはない。　ぜひ　見てほしい。　残したいですね」と言っていましたが、すばらしいロケーション。　ここでも　縄文人はすばらしい景色の中にいたことがわかる。

南から北へ　右手の山裾を流れる愛知川の河岸段丘の上広がる相谷熊原遺跡のある河岸段丘　東側より　2010.6.5.

圃場整備が進む田園地帯に入るところに現地説明会の受付けのテントが建てられ、そこで現地説明会の資料をもらう。
圃場整備が進む奥の一角にテントがはられた場所があり、その手前の一角にたくさんの人たちが群がっているのが見える。
手前の人が群がっている場所が今回　縄文草創期の竪穴住居群（4 棟）が連なって発掘された場所で、その奥テントが立つよ

このところが、土偶が発見された竪穴住居跡の場所ですでに埋め戻され、その横のテントの中で　今回出土した土偶が見られるという。10 時になって現地説明会が始まった。
人が多く、土偶を見る人がテントのところで詰まってしまうと予想され、約 50 人程度づつ遺跡そばに行って現地説明を聞く。

永源寺相谷熊原遺跡　　河岸段丘の上　北側から南側　　2010. 6. 5.



5 号竪穴住居跡（手前北側）より　南側へ
写真中央　テントの右樹木がみえる一段上がったところが
土偶が出土した 1 号竪穴住居跡の位置

2 号竪穴住居跡（南側）より　北側へ
正面奥山の下の家並下を愛知川が流れ下る

13000 年前の縄文草創期の竪穴式住居跡　同時期に 4 棟が建ち並び　縄文の村形成のはじまりか・・・

八風街道　と八風峠

近江八幡の佐宿から八日市・永源寺・八風峠（鈴鹿）を経て伊勢へ至る近江商人や伊勢の商人たちの重要な通商路で、伊勢と京都を結ぶ最短コースとして栄えた古道である。

現在　国道３２１号線がほぼこの道をたどるが、鈴鹿越は八風峠の北側の石樽峠を通る。

武佐（近江八幡：八風街道と分岐）－末広－小脇（八日市）－八日市－妙法寺－立石－御園－如来－　山上（永源寺）－高野－九居瀬－蓼畑－杠葉尾（ゆずりお）－八風峠－菰野三

八風峠の由来が初めて語られたのは[伊勢風土記]（和銅 710 年）

『　伊勢国は天御中主尊の第十二世孫、天日別命が統治している土地である。この地から東へ数百里のところに、伊勢津彦命の治める土地がある。

天日別命は伊勢津彦命に問うていわく。「天孫たる我等にこの地を献上されたい」

伊勢津彦命は 「我らは当地を統治して久しく、いまさら貴方の言うことは聞けない」

そこで天日別命は兵を引き連れ攻め入ろうとした。

すると 伊勢津彦命は恐れ入って「我らはこの地に留まらず」と降伏した。

天日別命は「汝の去る証しは何か？]と問うたところ、答えて

「我は神通力で八風（やかぜ）を起こして海水を吹き上げ、その波に乗って東方に立ち去るつもりである。これは天孫に対する我等の敬意である」 と。

天日別命は兵を整えて待機していると、真夜中になって大風が四方から吹き起こり、それが波浪をあおり立て、光は稲妻となって海も陸も明るく照らした。

そして　ついに伊勢津彦命はその波に乗って遠く信濃の国へ立ち去っていった。 』

このときの八風（やかぜ）が八風峠の語源だと言う。

地元の村の人々は伊勢津彦命を守神として神社に祭り敬っている。

神通力で[やかぜ]を巻き起こしたことから、伊勢津彦命は風の神様としてあがめられ、八風大明神として、八風峠にかつて神社があったという。

2.　永源寺相谷遺跡　縄文草創期の竪穴式住居跡群

〔記事の中の竪穴式住居図面は現地説明会資料より転載〕

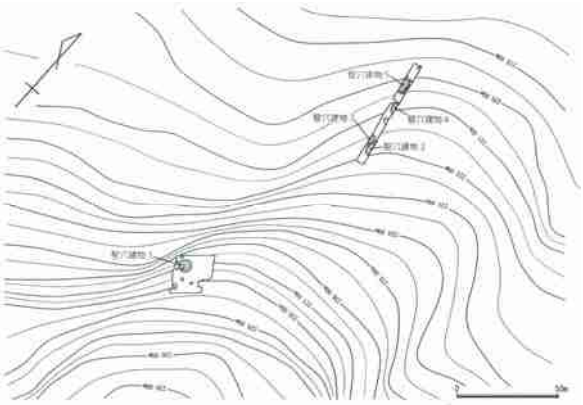
愛知川（写真正面）が西から東へ流れ下る河岸段丘の上に 13000 年前の草創期の竪穴式住居群（5 棟）が出土

まだ　定住が安定化しないと考えられていた　13000 年前の縄文草創期

想像とはかけ離れた直径 8m　・寒さを避けるための深さ 1m にも及ぶ大型竪穴住居がほぼ同時期に

5 棟隣接立ち並ぶ。 住居内には炉跡はなし。縄文草創期にすでに村が形成???? 定住の始まりか・・・

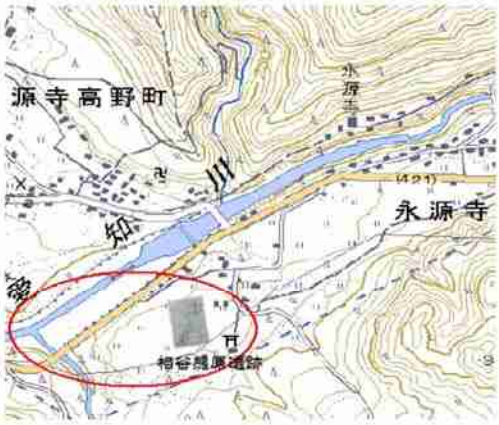
また、気候の寒冷化を反映しての深い竪穴　関西で見るのは初めて

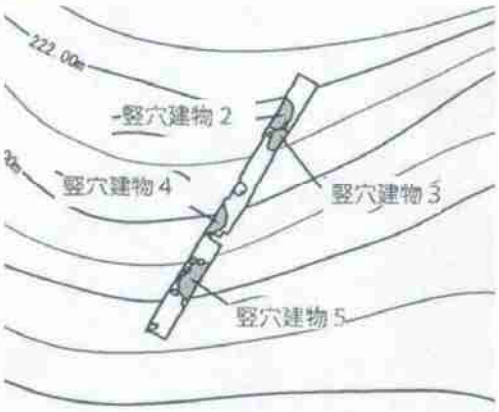


13000 年前の縄文草創期の竪穴式住居跡が出土した場所で現地説明が始まった。

この場所は愛知川（写真正面）が西から東へ流れ下る河岸段丘の上で南北に伸びる小さな尾根筋の斜面に沿う場所で斜面を背に 13000 年前の草創期の竪穴式住居群（5 棟）が立ち並んで出土。この場所で 4 棟　少し上のところで土偶が見つかった竪穴式住居 1 棟　あわせて 5 棟の竪穴式住居が見つかった。しかも　これらの竪穴式住居は直径が 8m ほどの大型でほぼ同時代縄文草創期のもので建ち並んで出土したという。

また　住居の竪穴は深さ約 1m と深くこれは　縄文草創期の寒冷な気候を反映したもので、住居内にはいずれも炉はないという。





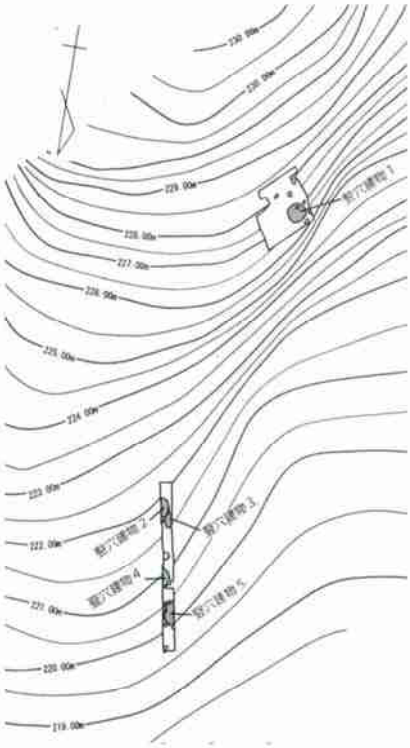
2 号竪穴住居跡（手前）より　北へ　縄文草創期の竪穴式住居跡群が並ぶ

一般に縄文人が定住をはじめるのは縄文早期といわれ、縄文草創期にはまだ　渡り歩く生活が主と考えられてきた。
発掘された竪穴式住居跡に立つと本当にびっくり。
「これが 13000 年前　まだ森を渡り歩く生活が主である時代の住居あとか・・・・」と。

出土した住居跡はほぼ同時代の住居跡群だということにびっくり。
整然と大きな本格的な竪穴式住居が 5 棟も建ち並んでいたとなるとこれはもう村の出現と言えるのではないか・・・
しかも　竪穴は深く　大型の住居である。
限られた道具しかない時代に　この住居群を作るには多くの人たちの共同が必要だったろう。ここでは　もう定住の共同生活が始まっていたのではないか・・・・
出土したすばらしい土偶ばかりに頭が行っていたが、縄文草創期の村の出現。　それもあまり有名な縄文遺跡のない関西にに。　本当にびっくりである。

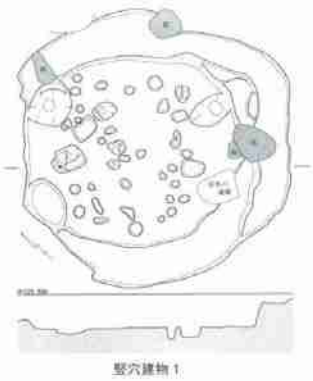
- この住居跡はどこまで　ひろがっていたのだろうか・・・・
  この発掘地の西側には広大な台地が西へ広がっているが　この台地の下にも縄文遺跡が眠っているのだろうか
- この河岸段丘の南西の端の森からは縄文晩期の土器棺墓が 30 基　昨年末に発見されたというが、
  この河岸段丘では縄文草創期からずっと住み継がれてきたのだろうか・・・　　」
- また　最古級の土偶は鈴鹿の山並を越えた三重でも発見されていて、この愛知川が流れ下る八風街道の鈴鹿越は太古からの交流の道だったのだろうか・・・

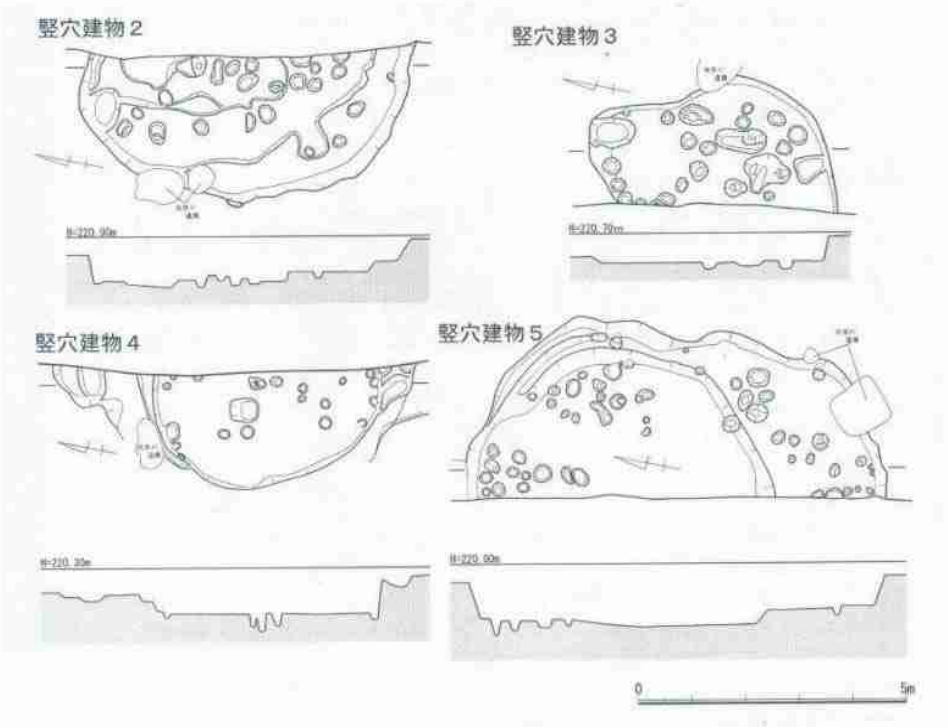
今までの縄文草創期のイメージからは大きく進化している遺跡をどのように受け止めたらいいのか　夢が次々と広がってゆく。　まだ　半信半疑であるが、住居跡に沿う道をあっちへ行ったりこっちへ行ったり往復しながら　この住居跡を見る。
来るときは　そこまで考えていなかったのですが、「すぐに　埋め戻されてしまう」と聞いて　むしろ景色が見たくてやってきたのですが、「来てよかった」と。



5号竪穴住居跡（手前）より　南へ縄文草創期の竪穴式住居跡群が並ぶ

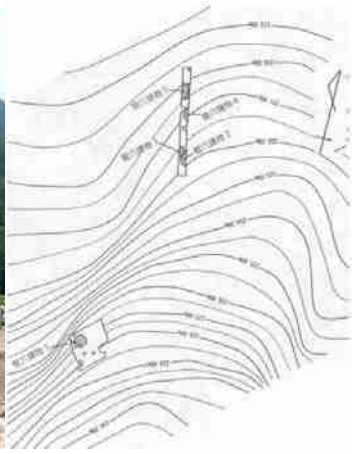
写真中央　テントの右　樹木がみえる一段上がったところが　土偶が出土した1号竪穴住居跡の位置





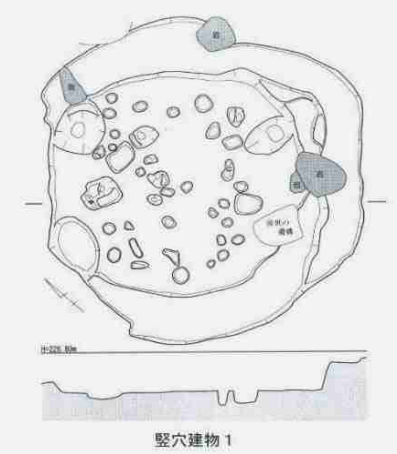
出土した縄文の竪穴式住居の平面図・立面図　　現地説明資料より

α.　最古級の土偶が出土した１号竪穴式住居跡



現在すでに埋め戻され、圃場整備が進む１号竪穴住居跡周辺

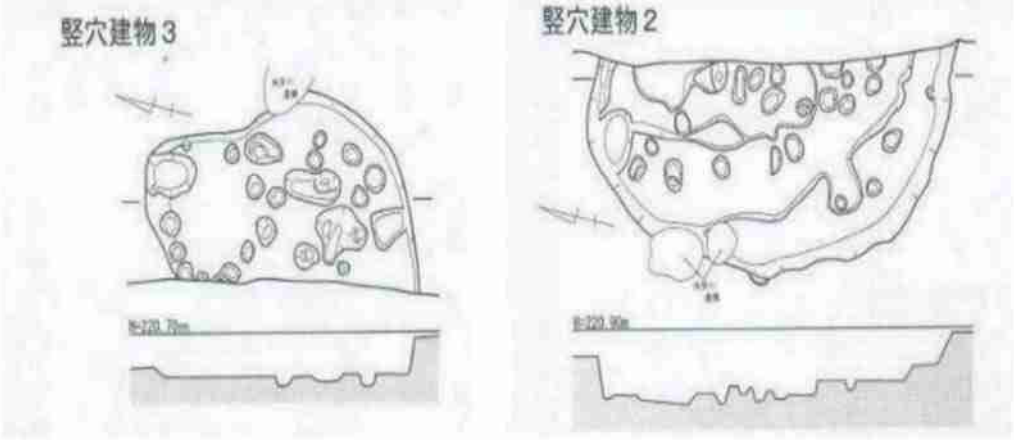
土偶が出土した１号竪穴住居跡周辺　(1)　　13000 年前　縄文草創期

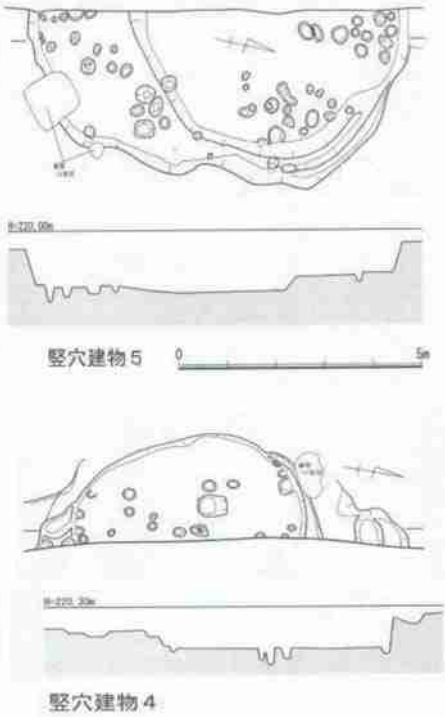


土偶が出土した１号竪穴住居跡周辺　(1)　　13000 年前　縄文草創期

土偶は取り除いた住居跡地の土の中から見つかったので　正確な住居内の位置はわからない

b.　2 号竪穴式住居～5 号竪穴式住居





縄文草創期に直径の大きい大型の竪穴住居が建ち並び　すでに村を作っていた????

予想以上に深い竪穴　また大きな直径の竪穴住居群

2.　縄文のビーナス誕生を思わせる縄文草創期　日本最古級の土偶の見学

永源寺相谷熊原遺跡出土　相谷土偶　2010.6.5.

2010年5月30日　日曜日　朝日新聞　朝刊より　【1】

最古級 ふくよか土偶

滋賀県文化財保護協会は29日、同県東近江市永源寺・相谷熊原遺跡から縄文時代草創期（約1万3千年前）の国内最古級の土偶1体が出土したと発表した。三重県で1996年に見つかった土偶とほぼ同時代のもの。ともに女性像で、今回の土偶のほうが指先サイズと小型だが、乳房や腰のくびれが優美に表現されている。信仰や祭祀に使われたとみられ、旧石器時代からの転換期の縄文人の精神文化の芽生えをうかがえる貴重な発見という。（加藤啓子）＝35面に関係記事

縄文草創期 指先大

滋賀・相谷熊原遺跡

土偶は高さ3・1センチ、最大幅2・7センチ。重さは・8グラム。頭部や胴体部分だけを表現した、原始的な形状だ。

三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土した同時代の土偶（全長6・8センチ、最大幅4・2センチ）が逆三角形に近い形状なのに対して、今回の土偶は豊満な体形。京都大大学院の泉拓良教授（考古学）は「パランスがいい。女性らしさの表現は、多産や豊穣の願いを託したのでは」とみる。

土偶は今回出土した5棟の竪穴建物群のうち、1棟を覆っていた土から見つかった。この棟から縄文草創期の特徴を持つ尖頭状石器や矢柄研磨器（砥石）が出土。土器に検出した炭化物を放射性炭素年代測定法により鑑定した結果なことから、土偶も約1万3千年前のものとみなした。

竪穴建物跡は直径約8メートル、深さ約1メートルの棟もあり、国内各地で出土した同時代の「最古級」の竪穴建物跡（直径4～5メートル、深さ30～40センチ）に比べて規模が大きい。多大な労力を注いで建てられたとみられ、定住用の建物の可能性がある。

県文化財保護協会の松室孝樹主任は「縄文人の定住化への過程と、土偶のルーツの関係を探る鍵になる発見だ」と話す。

現地説明会は6月6日午前10時と午後1時半からの2回。問い合わせは同協会（077・548・9780）へ。

相谷熊原遺跡で出土した土偶＝26日、滋賀県東近江市、竹花徹朗撮影

2010年5月30日　日曜日　朝日新聞　朝刊より　【2】

安定願った 豊満な体

最古級土偶 専門家「定住へ意識」

三重　三重県の粥見井尻遺跡で1996年に出土した土偶＝三重県埋蔵文化財センター提供

滋賀　相谷熊原遺跡で出土した土偶＝29日、滋賀県東近江市、竹花徹朗撮影

ながらかな同のライン、胸の豊かな膨らみ、腰のくびれ――。滋賀県東近江市の相谷熊原遺跡から出土した縄文時代草創期の国内最古級の土偶は、三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土した同時代の土偶と、ほぼ同じ特徴を持つ。縄文人の精神文化の芽生えをうかがえる貴重な発見だ。

三重県の土偶は、約9500年前の縄文時代草創期の遺構から出土した。同時代の土偶は、約1万3千年前にさかのぼる三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土している。

縄文時代に詳しい国立民族学博物館の小山修三・名誉教授は、欧州の旧石器時代のビーナス像と同様、乳房が強調されていることに注目。「当時の豊穣さのシンボルが女性の胸にあったということなろう。縄文人が初めて土偶を作り、祭祀を強調した狩猟採集の共同体意識が芽生えたのだ」と話す。

奈良大学の水野正好・名誉教授（考古学）も「人々が定住していたといえる住居が多数ある集落の発見は貴重だ」と指摘する。

縄文時代草創期

日本列島で人類の生活が始まったとみられる後期旧石器時代に続く時代。約1万3千年前から約1万千年前とされる。最終氷期が終わり気候は暖かくなり、人々は竪穴住居の種を蒔いた。「矢柄研磨器」などと新しい石器や土器が数多く出現したのが特徴。旧石器時代の人々は移動生活を繰り返していたが、縄文草創期に竪穴建物が造られ始めたとみられることから、この時代に定住化が進んだとする研究者もいる。

京都大大学院の泉拓良教授（考古学）は大規模な遺構と最古級土偶の関連について、「土偶に人々が托したとされる豊穣や子孫繁栄の願いは、共同体意識があって初めて生まれる。土地に根ざして生きるという覚悟が、この土偶を生んだのかもしれない」と語る。

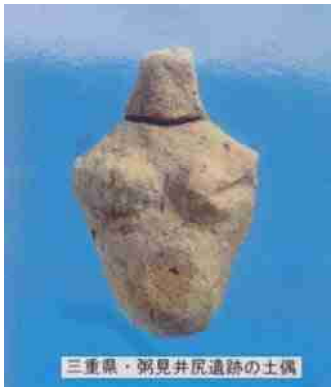
出土した相谷土偶
高さ 3.1cm のミニの土偶

相谷熊原遺跡（東近江市永源寺相谷町）で、近畿では初となる縄文時代草創期（約１万３千年前）の竪穴建物群跡を発見、国内最古級の土偶１点が出土
出土した土偶は高さ３・１センチ、最大幅２・７センチ、重さ 14・６グラム。
頭はなく、頂部に小さな突起があり、深さ２センチのせん孔が施されていて、穴を空けることで頭部そのものを表現したと考えられている。強調された乳房と腰のくびれがリアルに表現され、底部を平らに仕上げ、自立できる構造は縄文中期以前では類をみない。
2.1cm の超ミニ版で女性が身につけて大事に持っていたのではないかと推察される。

「縄文のビーナス誕生」を思わせる女性の体形の明瞭・リアルな表現で精巧な土偶作りが、縄文草創期に既に行われていたことに驚きである。

土偶作りが盛んとなる縄文中期以降の土偶　国宝の茅野市棚畑遺跡の「縄文のビーナス」などが　大きな臀部をシンボリックに表現しているのに対して　出土した土偶は胸を強調していて時代の差が浮き彫り。
縄文草創期の最古級の土偶は今回出土した相谷土偶ほどリアルではないが、この地より南へ約 60Km 鈴鹿山脈を越えて三重県側にいったところにある粥見井尻遺跡でも 2 つ出土し、合計 3 体が出土している。
このことから　土偶のルーツ　とりわけ　女性の体形の明瞭・リアルな表現がなされた土偶「縄文のビーナス」がこの地で育まれたのではないかとの期待が強くなるとともに、この八風街道を通って鈴鹿の山並みの両側に居た縄文人たちが交流していた可能性も考えられる。
とにかく　すごい　土偶　縄文のビーナスの出土である。

日本最古級縄文草創期の土偶が出土した
粥見井尻遺跡と永源寺相谷熊原遺跡の位置関係



粥見尻井土偶
全長 6.8cm
松阪市粥見井尻遺跡
13000 年前　縄文草創期　最古級の土偶

相谷土偶
高さ　3.1cm
東近江市永源寺相谷熊原遺跡

国宝　縄文のビーナス
高さ 45cm
茅野市棚畑遺跡
縄文中期　4500 年前

重文　仮面の女神
全長　34cm
茅野市中ツ原遺跡
縄文後期前半　4000 年前

ずらっと並んで　縄文草創期の竪穴式住居群跡を見る現地説明会参加者　　2010.6.5.

既に埋め戻されているが　直ぐ脇の　号竪穴式住居出土した土偶が飾られたテント　　2010.6.5.

早く出土した土偶を見たいのですが、土偶が展示されている上のテントの所の行列が長く、すき具合を眺めながらその行列に加わる。みんな目当ての土偶なので中々前に進まない。
行列の後ろからのぞきこむと　ケースに入れられた土偶は 新聞の写真で見る以上に小さい。
みんな顔をすり寄せ、カメラや携帯電話で　思い思いの写真を撮っている。
早く出土した土偶を見たいと上のテントの所の行列に並ぶのですが、みんな目当ての土偶に中々進まない。

出土した現場近くのテントの中で展示された相谷土偶　　2010.6.5.

やっと自分の番。これが・・・・・。小さいが　やっぱり縄文のビーナス誕生だ。　実に成功に作られている。
新聞写真では白い肌で石製のように見えたが、赤い座布団に座っていた為か、濃い茶色の土製である。
しゃがみこんで顔をケースに近づけ、正面・右から　左からと写真を撮る。

現地に来るまでは　頭部がみつかれば・・・・と思っていましたが、もともと頭がないのがオリジナルで胴の中につけられた穴が頭の表現だと聞く。　土偶は三内丸山遺跡の板状土偶なども中に穴が通っているが、この穴ががそのルーツか・・・。草創期から簡略化しても　穴を通すのが重要なわけがこの土偶に遡れると一人合点する。

13000年前　縄文草創期　最古級の土偶3例の中のひとつ
相谷土偶　東近江市永源寺相谷町　相谷熊原遺跡

写真を撮るので夢中だったので、再度行列の後ろにくっついてもう一度土偶を見る。
関西に素晴らしい「縄文のビーナス」出現にうれしくなる。満足感一杯でテントを離れる。

このテントの直ぐ上のところに東西に伸びる道があり、西へ行くとその先　鉄塔のある林ガが昨年 12 月　縄文晩期の土器棺墓が出土した場所だと教えてもらうが、今日は通行止めでそちらへは行けない。参加者はこの道を右に折れて　少し下がったところの広場にあるにある発掘事務所に展示された出土遺物を見にゆく。こちらも長い行列である。発掘事務所に行く前に　さらに南へ少し登って　今はもう埋め戻されているが、1 号竪穴式住居周辺や遺跡全体を南側から眺める。

南側から相谷熊原遺跡全体を眺める　　2010. 6. 5.

3. 草創期の竪穴住居跡群から出土した遺物

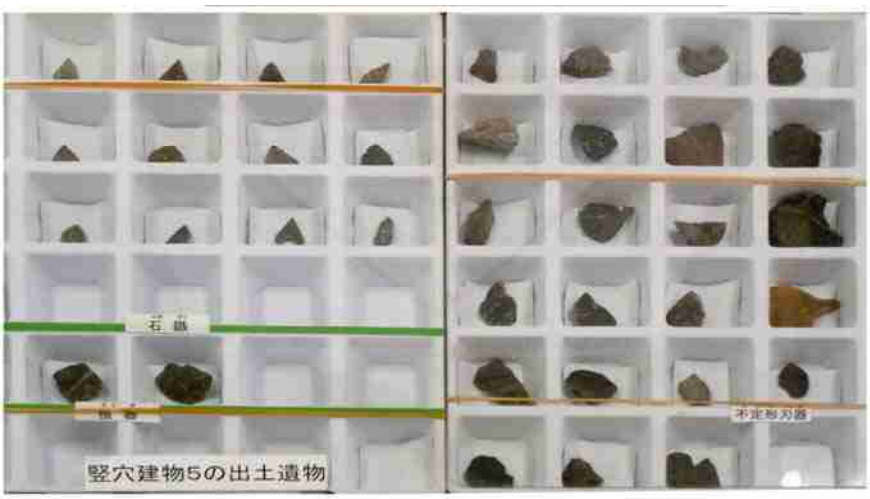
相谷熊原遺跡　発掘現場事務所　展示会場で

相谷熊原遺跡　発掘現場事務所　出土品展示会場　周辺　　2010.6.5.

竪穴建物からの出土遺物【1】

縄文草創期　竪穴式住居　想像復元図

竪穴建物からの出土遺物【2】



竪穴建物からの出土遺物【3】

● この河岸段丘の南西端のところから出土した３０基の縄文晩期の土器棺墓

相谷熊原遺跡（八尾城遺跡）　調査地全景

相谷熊原遺跡　縄文時代の埋め甕が２基

土器棺墓14基 出土

相谷熊原遺跡 縄文期 骨の粉も

愛知川上流域の相谷熊原（あいだくまはら）遺跡（東近江市永源寺相谷町）から、縄文時代晩期前半（約3千年前）の土器棺墓14基がまとまって出土した。発掘調査を進める県文化財保護協会が17日、発表した。協会は「付近に縄文時代の集落があった可能性が高い。この流域での縄文人の暮らしを知るうえで貴重な発見だ」としている。

相谷熊原遺跡で見つかった土器棺墓＝東近江市永源寺相谷町

土器を棺に転用した土器棺墓は調査対象の約3400平方メートルのうち、南側の約500平方メートルの範囲で見つかった。

棺に使われた土器の大半は高さ40～50センチ、直径30～40センチの深い鉢形。鉢や土器の破片などでふたをして埋められていた。棺や墓穴の中からは骨の粉が見つかった。

調査地からはサヌカイトや飛騨地方で産出する下呂石を使った矢じり（石鏃）などの石器、土器棺墓の棺を模した高さ約4センチのミニチュアの土器などが出土した。

また、調査地西側の区画では大小の石を1カ所に集めたり、組み合わせたりした遺構が確認された。いずれも石に熱を受けた痕跡があることから、火を使った遺構と想定される。蒸し焼き用のオーブンや炉の可能性もあるという。

調査にあたった県文化財保護協会企画調査課の松室孝樹主任は「土器棺墓の数からみて、付近に規模の大きな集落があったとみられる。矢じりなどの出土品からは、後世の街道の原型ともいえる鈴鹿山脈越えの交通ルートが縄文時代から存在していた可能性が考えられる」と話す。

現地説明会は20日午後1時半から。雨天決行。問い合わせは県文化財保護協会（077・548・9780）へ。

12月18日（金）朝日新聞（滋賀）

縄文時代の土器棺墓発見

東近江 相谷熊原遺跡から14基

穴から検出された土器棺墓＝東近江市永源寺相谷町で

鈴鹿山系のふもと、愛知川沿いの東近江市永源寺相谷町の「相谷熊原遺跡」から、縄文時代晩期（三千年ほど前）の土器棺墓が十四基見つかった＝十七日、県文化財保護協会が発表した。同時代の土器棺墓がまとまって見つかったのは県内で三例目だが、琵琶湖周辺以外の愛知川上流域では初めて。協会は「棺を用いた可能性のある埋葬遺構が爆発的に増える直前の時期に当たり、出現期の様相を把握していく上で貴重な例」としている。（前畑英則）

20日、現地説明会

同市永源寺地区での縄文時代の遺跡調査は、県営圃場整備事業に伴い、今年七月から実施された。現場は山間部と平野部の境に位置する段丘で、愛知川対岸に大本山・永源寺がある。

土器棺墓は土器を棺の容器として用い、死者を葬るもの。五百平方メートルの調査区域で見つかり、いずれも高さ四十～五十センチの浅鉢型土器が横向けに埋まった状態で確認された。人骨は確認されなかったが、穴の周辺から細かな骨片が見つかった。土壌墓で埋葬された後、土器棺が入る穴を掘り、再葬された可能性が高いとみられる。東海地方で検出されたものと同型の石斧や耳飾り遺物も出土した。

松室孝樹主任は「現存状況を踏まえ、縄文人の生活や集落の変遷、鈴鹿山系を越え東海地方との交流を考える上で重要な資料」と話している。現地説明会は一二日午後一時半から。

12月18日（金）中日新聞（滋賀）

縄文晩期の土器棺墓出土

東近江・相谷熊原遺跡

東海地方の石や石器も 交流示す証拠に

相谷熊原遺跡で見つかった死者を埋葬したとみられる14基の土器棺墓（東近江市永源寺相谷町）

滋賀県文化財保護協会は17日、相谷熊原遺跡（東近江市永源寺相谷町）で縄文時代後期の遺構や晩期の土器棺墓などが見つかった、と発表した。同協会は「かなりの規模の集落があったと考えられる。縄文時代から東海地方との交流があったことを示す証拠になる」とみている。

ほ場整備事業に伴い、7月から約7400平方メートルにわたって調査した。調査地の南側の区画から直径約30センチ、高さ約40～50センチの縄文時代の浅鉢型土器が横向きに埋まった状態で見つかった。また、調査地全体で、東海地方で見られる特有の方法でつくられた石斧なども出土した。

同協会の松室孝樹企画調査課主任は「伊勢湾沿岸地域と、鈴鹿山脈を越えて琵琶湖沿岸地域を結ぶ交通のルートがあったことを示している。貴重な資料」と話している。

現地説明会は20日午後1時半から。（宇都宮）

12月18日（金）京都新聞（滋賀）

縄文時代の土器棺墓出土

相谷熊原遺跡 14基、湖東で初確認

14基が密集した状態で見つかった縄文時代晩期前半の土器棺墓＝東近江市の相谷熊原遺跡

県文化財保護協会は17日、東近江市永源寺相谷町の相谷熊原遺跡で、縄文時代晩期前半（約3千年前）の土器棺墓14基などが出土したと発表した。縄文時代の大規模な墓域は南西、南南西地域で見つかっているが、湖東地域で確認されたのは初めて。

同遺跡は鈴鹿山麓愛知川、山間と平野の境にあたる。上流の段状の丘にあり、土器棺墓は、高さ40～50センチの縄文時代の深鉢型の容器に埋められ、ほかの深鉢や浅い鉢でふたがしてあった。内部の土からは、細かい骨片や歯が見つかった。埋葬されているのは基、約450平方メートルの範囲に密集するものとみられる。

県内では、縄文時代晩期の土器棺墓として北部西海道遺跡（高島市）で60基、琵琶湖畔遺跡（大津市）で25基が出土している。

また、周辺からは深鉢型土器を模した祭祀用のミニチュア土器（高さ約4センチ）や、蒸し焼き調理に使ったと見られる炉、東南・北東部の石を加工した石斧や奈良などで産出するサヌカイトを使った矢尻なども出土した。

協会企画調査課の中村健一主任は「湖東地方にも多くの縄文人が住む、近畿・東海・北陸地方の往来ルートだったことを示している。貴重な資料」と話している。

現地説明会は20日午後1時半から。

12月18日（金）産経新聞（滋賀）

4.　東近江の古刹　緑の中にうずまる　紅葉で有名な永源寺 Walk

永源寺車庫-紅葉橋―永源寺門前―永源寺山門―永源寺本堂―永源寺裏門―永源寺会館-愛知橋-永源寺車庫

永源寺車庫前から少し下って紅葉橋から永源寺門前へ

緑の中にうずもれている永源寺の境内　永源寺の山門　　2010. 6. 5.

永源寺本堂前

永源寺本堂　　2010. 6. 5.

永源寺の本堂からそのまま東へ裏門を抜けると愛知川沿いの崖の上を緑の道が永源寺会館・愛知川橋を経て　東側から永源寺車庫前へ出て来れる。　東に聳える鈴鹿の山々が、時折樹木の間から望める緑に包まれた静かな道である

永源寺の裏門より愛知川沿いの崖の上を東へ　　2010. 6. 5.

永源寺の裏門側より　東の鈴鹿の山々　其の手前に永源寺ダムが望めました　2010. 6. 5.

南側には愛知川ダムの下に広がる相谷の集落がのぞめ、

下方　緑の中に愛知川に架かる真っ赤な愛知橋が見える

南東側には　相谷熊原遺跡がある対岸の河岸段丘が望めました　2010. 6. 5.

永源寺裏門からの道は愛知川沿いの崖の上を愛知橋の東まで行って　そこから分岐Ｕターンして
愛知橋へ下って橋を渡る。
　愛知橋の真上　対岸の緑で見えないが　正面の山の下が相谷熊原井関が広がる河岸段丘である

永源寺裏門からの道に架かる愛知橋より　左上流側　右　下流側　2010. 6. 5.

永源寺車庫まで戻ると緑の林の中にうずまって　対岸に永源寺の本堂がみえる　2010. 6. 5.

5.　まとめ

永源寺相谷熊原遺跡　　縄文の村の始まりと縄文のビーナス誕生を示すのか

5 月の末　新聞の一面に 13000 年前縄文草創期の素晴らしい土偶が出土したとの記事。それも　関西で・・・・・。
これ本当に 13000 年前の縄文草創期に作られた土偶だろうか　と疑いたくなる精巧さと美しさ。
まさに「縄文のビーナス」こんな素晴らしい土偶が関西で生まれた。
これはぜひ見たいし、どんな場所に埋まっていたのだろうか・・・・
そっちの方も興味津々で　6 月 5 日　東近江　永源寺相谷熊原遺跡の現地説明会に出かけました。
本当に行ってよかった。

新聞で見たイメージとは異なり、本当に小さな土偶でしたが、「縄文のビーナス誕生」を思わせる素晴らしい土偶。
私だけでなく　こんなに縄文ファンが関西に居るのかと思わせるぐらい多くの人たちが食い入るように眺めていました。
また、この草創期の縄文人が住んだ場所　関西の縄文人も眺望の効く本当に素晴らしい高台に住んでいました。
　「出土した場所は本当に眺望の効く景色のよい場所に違いない。
　　まだ、移動生活が主である縄文草創期　13000 年前の縄文人が軒を連ねて住んでいた。これもトピックス。」
場所は東近江　近江平野の真ん中を東の鈴鹿山脈に向かって突ききって　鈴鹿の山の谷間に入った永源寺の愛知川河岸段丘の上。東には壁となって鈴鹿の山々が連なる広い河岸段丘　今は広々とした田園がが西の琵琶湖に向かってひろがり、その下を鈴鹿から緑の帯となって愛知川が西へ流れ下って行く。対岸の山腹には永源寺　そして其の西側の河岸段丘の上　緑の中に永源寺の集落がみえる。本当に気持ちのよい展望の利く高台でした。
遺跡へ行く道々　道連れとなった滋賀県文化財保護協会の案内人の人が
「土偶も素晴らしいですが、是非　遺跡からの素晴らしい景色も見てほしい。」と発掘の様子などと共に話してくれましたが、本当でした。「やっぱり　縄文人は素晴らしい場所に住んでいる」　縄文遺跡を訪ねる楽しみです。
本当に来てよかったと。

南から北へ　右手の山裾を流れる愛知川の河岸段丘の上広がる相谷熊原遺跡のある河岸段丘　東側より　2010. 6. 5.

遺跡のある河岸段丘の東に聳える鈴鹿の山々　　2010.6.5.

この山間を八風街道が近江から鈴鹿越して伊勢へと続いている

また、この場所は「伊勢」「八風」の語源となった伊勢風土記に記術のある古道「八風街道」が近江と伊勢を結び、この鈴鹿山脈周辺には三重県側　近江側いずれにも点々と縄文・弥生の遺跡群がある。

伊勢側　松阪粥見井尻遺跡からも最古級の土偶「粥見井尻土偶」が出土している。

また、この八風街道に沿って流れる愛知川下流には縄文後期　ウッドサークルの中で仮面をつけて祭を行ったといわれる能登川正楽寺縄文集落遺跡がある。縄文人たちは草創期から広くこの道を通って　各地と交流していたのだろうか・・・・・

縄文草創期にこの地では　移動の生活から共同村での定住生活をはじめ、そこでは　後の時代に「縄文のビーナス」と呼ばれるすばらしい女性像の土偶がつくられはじめていた。

この鈴鹿の山懐は「縄文のビーナス」・「縄文の村」を誕生させた関西の縄文人の故地ではないか・・・と。

あまり日の目を見ることのなかった関西の縄文

この永源寺相谷熊原遺跡が縄文草創期の村として整備され、この素晴らしい土偶が見られるようになればいいのですが・・・

まだ、この永源寺相谷熊原遺跡も発掘が端待ったばかり。この河岸段丘の中にどんな遺跡が眠っているのだろうか・・

思いは次々と広がってゆきます。

「関西に縄文の灯を　」

2010.6.5.　永源寺からの帰路のバスから　愛知川の流れを眺めながら

Mutsu Nakanishi

【　参　考　】

1. 東近江市永源寺相谷町　相谷熊原遺跡　縄文草創期竪穴住居後群・土偶出土　現地説明会　資料　2010.6.5.
   http://www.shiga-bunkazai.jp/download/pdf/100606_aidani.pdf
2. 東近江市永源寺相谷町　相谷熊原遺跡　縄文晩期　土器棺墓群出土　　現地説明会　資料　2009.12.20.
   http://www.shiga-bunkazai.jp/download/pdf/091220_aidani.pdf
3. Country Walk 風来坊　　写真アルバム　東近江　陽だまりwalk　　2009.3.15.
   縄文のウッドサークル　能登川正楽寺遺跡と近江八幡　左義長祭りを訪ねる
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/9walk03.pdf
4. 永源寺相谷熊原遺跡で最古級の土偶出土を伝える新聞記事整理〔インターネットより採取〕2010.5.30.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1007aidaninews.pdf

参考　日本最古級のリアルな女性像表現の土偶出土を報じた永源寺相谷熊原遺跡　新聞記事整理

土偶が出土した竪穴住居１跡　　４つの竪穴住居が連なって出土　奥より竪穴住居2→5跡　　土器棺墓

最古級 ふくよか土偶

縄文草創期 指先大

滋賀・相谷熊原遺跡

滋賀県文化財保護協会は29日、同県東近江市永源寺相谷町の集落遺跡・相谷熊原遺跡から縄文時代草創期（約1万3千年前）の国内最古級の土偶1体が出土したと発表した。三重県で1996年に見つかった土偶とほぼ同時代のもの。ともに女性像で、今回の土偶のほうが指先サイズと小型だが、乳房や腰のくびれが優美に表現されている。信仰や祭祀に使われたとみられ、旧石器時代からの転換期の縄文人の精神文化の芽生えを考えるうえで貴重な発見という。

（加藤藍子）＝35面に関係記事

土偶は高さ3・1センチ、最大幅2・7センチ、重さ14・6グラム。胴体部分だけを表現した。底を平たく仕上げて自立できる造りは縄文中期（約5千年前）以前の土偶では例がないという。

三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土した同時代の土偶（全長6・8センチ、最大幅4・2センチ）が逆三角形に近い形状なのに対して、今回の土偶は豊満な体形。京都大大学院の泉拓良教授（考古学）は「バランスがいい。女性らしさの表現は、多産や豊穣の願いを託したのでは」とみる。

土偶は今回出土した5棟の半地下式の竪穴建物群のうち、1棟を覆っていた土から見つかった。この棟から縄文草創期の特徴を持つ爪形文土器や矢柄研磨器（砥石）が出土。土器に付着した炭化物を放射性炭素年代測定法により鑑定した結果などから、土偶も約1万3千年前のものとみなした。

竪穴建物跡は直径約8メートル、深さ約1メートルの棟もあり、国内各地で出土した同時代の一般的な竪穴建物跡（直径4～5メートル、深さ30～40センチ）に比べて規模が大きい。多大な労力をさいて建てられたとみられ、定住用の建物の可能性がある。

県文化財保護協会の松室孝樹主任は「縄文人の定住化への過程と、土偶のルーツの関係を探る鍵になる発見だ」と話す。

現地説明会は6月6日午前10時と午後1時半からの2回。雨天決行。問い合わせは同協会（077・548・9780）へ。

相谷熊原遺跡で出土した土偶＝26日、滋賀県東近江市、竹花徹朗撮影

安定願った 豊満な体

最古級土偶 専門家「定住へ意識」

三重　三重県の粥見井尻遺跡で1996年に出土した土偶＝三重県埋蔵文化財センター提供

滋賀　相谷熊原遺跡で出土した土偶＝26日、滋賀県東近江市、竹花徹朗撮影

なだらかな肩のライン、胸の豊かな膨らみ、腰のくびれ――。滋賀県東近江市の相谷熊原遺跡から出土した縄文時代草創期の国内最古級の土偶は高さ約3センチと小さいながら、女性の特徴が強調されていた。「子孫繁栄」「食生活の安定」への願いの表れなのか。約1万3千年前に土偶をつくった縄文人に、専門家は思いをはせた。＝1面参照

同時代の土偶は、約60キロ南にある三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土しているが、形状が全く異なる。南山大学の大塚達朗教授（考古学）は「今回見つかった土偶は豊満、立体的、リアルな造形で、ひと目で女性とわかる。粥見井尻遺跡の土偶とは制作意図が明らかに違う。安置して常に大切にするという意味が込められているのだろう」と指摘する。

縄文時代に詳しい国立民族学博物館の小山修三・名誉教授は、欧州の旧石器時代のビーナス像と同様、乳房が強調されていることに注目。「当時の豊饒さのシンボルが女性の胸にあったということだろう。縄文中期の土偶が、腹部や臀部を強調した妊婦型なのとは対照的だ。小型なのはお守りのように持ち歩くためでは」とみる。

その制作意図について、国学院大学の谷口康浩准教授（先史考古学）は「定住化による共同体意識の高まりの中で、『食生活の安定』『命の継承』に対するより強い願いが生まれたことの表れ」と推測。移動生活を繰り返していた旧石器時代に土偶は存在しておらず、世界観が完全に変わったことを示しているとみる。

土偶が見つかった竪穴建物跡にも専門家は注目する。相谷熊原遺跡は三重県境の鈴鹿山脈を源流とする愛知川南の河岸段丘にある。山間部に開けた平地で5棟の跡が確認された。

京都大大学院の泉拓良教授（考古学）は大規模な遺構と最古級土偶の関連について、「土偶に人々が託したとされる豊穣や子孫繁栄の願いは、共同体意識があって初めて生まれる。土地に根ざして生きるという覚悟が、この土偶を生んだのかもしれない」と語る。

奈良大学の水野正好・名誉教授（考古学）も「人々が定住していたといえる住居が多数ある集落の発見は意義が大きい」と指摘する。

縄文時代草創期

日本列島で人類の生活が始まったとみられる後期旧石器時代に続く時代。約1万5千年前から約1万1千年前とされる。最終氷期が終わり気候は暖かくなり、人々は狩猟や漁労、木の実の採集などで生活の糧を得ていた。矢柄研磨器など新しい石器や土器が数多く出現したのが特徴。旧石器時代の人々は移動生活を繰り返していたが、縄文草創期に竪穴建物が造られ始めたとみられることから、この時代に定住化が進んだとする研究者もいる。

産経新聞　2009.5.30.

まさに〝縄文のビーナス〟　最古級の土偶発見

東近江・相谷熊原遺跡

【写真説明】
土偶が見つかった相谷熊原遺跡。
国内最古級の大型竪穴住居跡も確認された
＝滋賀県東近江市（塚本健一撮影）

ふっくらした胸に、わずかにくびれた腰-。
滋賀県東近江市永源寺相谷町の相谷熊原遺跡で見つかった土偶は、豊満な女性をリアルに表現した１万３千年前の“縄文のビーナス”だった。
子孫繁栄や安産のシンボルといわれる土偶。スタンプほどの大きさしかない超ミニサイズの人形に、古代人たちの深い祈りが込められていた。

今回の土偶は頭部が表現されておらず、首の部分に１ミリ大の穴が空けられていた。調査担当の県文化財保護協会によると、現代のひな人形のように頭部を棒状の芯ではめ込むタイプではなく、穴を空けることで頭部そのものを表現した可能性があるという。
縄文時代初めに誕生した当初の土偶は、頭部がなく胴体だけで表現されているものが一般的だ。今回の出土品は乳房が強調されていたことから、子孫繁栄を願うシンボルだったとみられる。
顔が明確に表現されるのは、縄文中期（約５千年前）になってからという。

縄文文化に詳しい渡邊昌宏・大阪府教委参事は「とても小さい土偶で、女性がお守りとして肌身離さず大切に持っていたのではないか」と推測。「女性が『乳がたくさん出ますように』と祈りをこめたのかもしれない」と、縄文人の心情に思いをはせる。

縄文初期の日本列島は、氷河期の終焉とともに海水面が次第に上昇し、それまで中国大陸と陸続きだったのが現在の姿になったころとされる。一方、地質学者らの研究によると、今回の土偶や竪穴住居跡が見つかった約１万３千年前は、地球規模で再び一時的に寒冷化し、現在より平均気温が１０度以上も低かったとの説がある。
京都大大学院の泉拓良教授（考古学）は、こうした気候変動に着目。
「急激な寒冷化によって、縄文人は寒さをしのぐため、深さが１メートルもある半地下式の竪穴住居を築くようになった」とし、「深くて大きな竪穴住居を築くには、集団で作業をしなければならず、人が集まることで新たな文化が芽生え、土偶が生み出されたのではないか」と推測する。
深さ１メートルを超える竪穴住居は、世界的にもシリアで出土した約１万２千年前が最古級とされ、泉教授は「今回の住居跡は、国内どころか世界的にも極めて古い」と指摘した。

土偶　粘土で女性をかたどった素焼きの人形で、縄文時代初めに出現。北海道から九州にかけて約１万５千点が出土しているが、弥生時代になると突然姿を消す。歴史教科書などで紹介される派手な装飾や大きな眼鏡をかけたような土偶は東北地方に多く、大半は縄文時代後期や晩期（約３千～４千年前）に作られたとみられる。

産経新聞　2009.5.29.

縄文初期の最古級土偶、竪穴住居跡出土　滋賀・相谷熊原遺跡

滋賀県東近江市永源寺相谷（あいだに）町の相谷熊原遺跡で、縄文時代初め（約１万３千年前）の土偶と大型竪穴住居跡が見つかり、県文化財保護協会が２９日発表した。いずれも国内最古級で、縄文人の生活や文化を知る上で貴重な資料になるとともに、従来は東日本が中心とされてきた縄文文化が近畿でいち早く誕生した可能性も出てきた。

土偶は高さ３センチ、重さ１５グラムと極めて小さく、竪穴住居跡から完全な状態で見つかった。頭部はなかったが、乳房が表現されていることから女性の上半身とみられ、子孫繁栄を願う象徴だったと推測されている。これまで最古とされていた土偶は、約６０キロ南にある三重県松阪市の粥見（かゆみ）井尻遺跡の２点で、今回とほぼ同時期という。

竪穴住居跡は５棟分が見つかり、うち２棟分は直径約８メートル、深さ１メートル近く。この時期の竪穴住居跡は全国で５０～１００例見つかっているが、大半は直径３～５メートルで、異例の大きさだった。大型住居を建てるには多くの労働力が必要なことから、この地域の縄文人が集団で生活し、住居を築いた可能性もあるという。

現地説明会は６月６日午前１０時と午後１時半。近江鉄道バス・永源寺車庫下車。

谷口康浩・國學院大准教授（先史考古学）の話「縄文文化は東日本中心という説が有力だったが、近畿や東海を中心に早い段階から芽生えていたのではないか。この時期は竪穴住居跡の発見例が少なく、定住はなかったとの見方が強かったが、今回の発見で定住化が進展していたことがうかがえる」

相谷熊原遺跡から出土した国内最古級の縄文時代の竪穴住居跡
２６日午後、滋賀県東近江市永源寺相谷町（塚本健一撮影）

土偶が出土した竪穴建物跡
滋賀県東近江市（滋賀県文化財保護協会提供）

滋賀県東近江市永源寺相谷町の相谷熊原遺跡で、
出土した国内最古級の女性をかたどったとみられる土偶

毎日新聞

土偶：国内最古級１体出土　滋賀の相谷熊原遺跡で

2010年5月29日 17時31分　更新：5月29日 19時8分

滋賀県文化財保護協会は２９日、同県東近江市永源寺相谷町の相谷熊原（あいだにくまはら）遺跡で、縄文時代草創期（約１万３０００年前）の竪穴住居跡５棟が見つかり、国内最古級の土偶１体が完全な形で出土したと発表した。同時期の住居群跡は全国で数例、土偶は三重県の粥見井尻（かゆみいじり）遺跡で２点しか発見されていない。移動生活から定住が始まった時期の暮らしや文化がうかがえる、貴重な発見となりそうだ。

発見された土偶は高さ３．１センチ、最大幅２．７センチ、重さ１４．６グラム。女性の胴体のみを、胸や腰のくびれも優美に表現し、底は平らで自立するのが特徴だ。上部に直径３ミリ、深さ２センチの穴があり、棒で別の頭部をつないだなどの可能性もある。

相谷熊原遺跡は、三重県境の鈴鹿山脈から流れる愛知（えち）川の南の河岸段丘にあり、山間地と平野部が接する場所にある。竪穴住居群は、緩い斜面約１００メートルの間に５棟連なって確認された。規模の分かるものは直径約８メートルのいびつな円形で、深さ約０．６～１メートルと、これまでの例より深く、しっかりした構造だった。作るのに相当な労力がかかる上、多くの土器や石器も出土しており、一定時期でも定住したことが考えられるという。

現地説明会は６月６日、午前１０時と午後１時半の２回。雨天決行。問い合わせは県文化財保護協会（０７７・５４８・９７８０）。【南文枝】

縄文時代草創期の竪穴住居跡から発見された土偶
滋賀県東近江市永源寺相谷町で、南文枝撮影